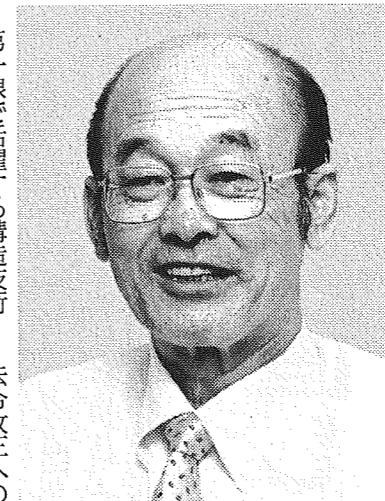


日本建築構造技術者協会(JSCA)法人化20周年

未来への責務に応える

「法令改正参画と自前の指針」 「構造資格」2つの悲願を実現

日本建築構造技術者協会(JSCA)は今年6月、「社会に貢献する構造技術者集団」として社団法人化されてから20周年を迎えた。今では会員4200人、賛助会員2300団体を擁する。改正建築士法で耐震強度偽装事件の再発防止策の1つとして、「構造設計一級建築士」が法的な資格として創設されるなど、構造技術者の役割はますます大きくなってきている。そうした中、9月11、12の両日、JSCA法人化20周年記念大会が「20年後の未来へ向けて今なすべきこと」社会へ貢献する構造とは」と題して開かれる。東京大学名誉教授の月尾嘉男、岡部憲明アーキテクチャーネットワーク代表の岡部憲明の両氏の基調講演を始め、構造デザイン発表会、アイデアコンペ発表会も行われる。



日本建築構造技術者協会
きほら ひろみ
木原 碩美会長に聞く

第一線で活躍する構造技術者が集まって発足した「構造家懇談会」が日本建築構造技術者協会の前身である。1981年のことだ。その後、89年に社団法人化。木原碩美会長はその法人化当時に「悲願」が2つあったと話す。

「1つは法令改正に参画するとともに自前の設計指針をつくること、もう1つが構造設計者の資格をつくらせて職能を同じくする構造設計に携わる者がそこに位置付けられることだった。20年を経て2つともようやく達成できた」

法令改正への参画は98年と2007年の二度にわたる建築基準法改正に際して達成できた。自前の設計指針は「建築の構造設計」として02年に刊行されている。倫理規定、建築構造設計規範、建築構造設計指針などがその主な内容だ。資格は、自主認定制度として建築構造士制度を93年に創設、現在2700人ほどが登録されている。08年施行の改正建築士法では、耐震強度偽装事件の再発防止策として「構造設計一級建築士」が法定の新資格として創設される

構造の性能語れる設計者に

「一連の法改正の審議の過程にJSCAが参画し、こうした成果を得られたことは建築構造設計界にとり、大きな前進だと考えている」

JSCAがこの世界で評価される大きなきっかけは、95年の阪神大震災でのボランティア活動にあった。「震災発生時には、全国の支部から会員がボランティアで現地入りし、その実践をもとに、震災等の被害緩和の上で「現行の設計法令はいかにあるべきか」など7項目をアクションプログラムとして提言した。これが、法令改正に参画できる評価につながり、自前の指針づくりに結びついた」

耐震強度偽装事件後、マンション居住者などを対象に設置した相談窓口では、全国で約2000件の相談に対応、社会的な存在意義を大きく高めた。今後の取り組みの大きな柱としては「職能の向上と設計責任の全う」を挙げる。

「構造設計一級建築士を会員の中核として考えている。そのうえでさらに会員のスキルの上を上げる必要があるため、研修制度を充実させていく。皮切りとして昨年、関東甲信越支部で若手、中堅、シニアの3種類の研修を実施した。これを全国展開しよう」と準備を進めている。今年からその3コースの研修を各支部で実施できると思う」

「構造設計者の社会的役割が法的に明確になったことから、設計者としての責任を果たすことがより重要になった。そこで、構造設計に限定した会員対象の『構造設計者賠償保険制度』を創設し、11月ごろにはスタートすることができると見込みとなった。既存の設計者損害賠償保険は物損がなければ保険が下りないが、JSCAの保険は設計が現行の基準を満たさない場合に生じる損害にも保険が下りる仕組みにした」

さらに、建築主や社会に対して構造設計に関する説明責任を果たすことの重要性を強調する。会員がクライアントのところへ行ったり、自分のつくる建築の構造性能を語ってくださり、というのを強くお願いしている。今までは縁の下力持ちだったが、これからの構造設計者は、お客さんの望みは何かを明確にし、性能設計を行い、期待に応えなければならぬ」

豊かな建築空間実現を

社団法人日本建築構造技術者協会は、構造設計に関する高度な技術を持った専門家集団として、わが国における建築物の安全性の確保に多大な貢献をされているとともに、このたびの制度改正においては、その円滑かつ的確な施行のため、資格者の確保やサポートセンターの体制確保などに、格別な支援と協力をいただいているところだ。

今後も引き続き、構造設計に関する高度な技術をもって、法令が求める安全性の確保はもとより、より創意工夫と文化性に富んだ豊かな建築空間の実現に寄与されるとともに、将来にわたって優れた構造設計者の人材育成を担っていかれることを期待しています。



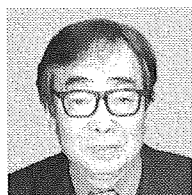
国土交通省住宅局長
川本 正一郎

構造設計については、構造計算書偽装問題の発覚により改めてその重要性が再認識され、その後の建築基準法改正や建築士法改正により、構造計算適合性判定や構造設計一級建築士制度などを導入し、構造設計に携わる関係者に期待される役割がより一層高まっております。

JSCA法人化20周年に寄せて

果たすべき役割重要に

(社)日本建築士会連合会会長 藤本 昌也



昨年の建築士法改正により、新たに構造設計一級建築士が誕生するなど、建築構造技術者の果たす役割が一層、重要となって参りました。私ども建築士会・建築士会連合会はこれまで貴協会と相互に手を携え、建築界の発展に努めて参りましたが、今後も国民の求める安全で安心を第一とした良質な建築は、貴協会会員の方々との幅広い協働なくしては実現ができません。今後、貴協会に託される期待はますます大きなものになると考えています。

ともに手を携えて

(社)日本建築学会会長 佐藤 滋



貴協会は、設立当初から社会への貢献を前面に掲げて活動されてこられました。本学会も目に見える形で社会に貢献することを目指して「巨大災害に対する備え」「地球環境問題への対処」等の課題に重点的に取り組んでおります。

JSCA会員の多くの方はまた本学会の会員でもあります。

ともに手を携えて「建築」に対する社会の大きな期待に応えて参りたいと存じます。

社会への信頼構築に努力

(社)日本建築家協会会長 出江 寛



貴協会におかれましては、一昨年の建築基準法、昨年の建築士法の改正によって、建築構造技術者の地位と役割が強化され、さらには「JSCA建築構造士」制度のスタートで、社会に対するより一層の信頼構築に向け、多大のご努力を続けてこられました。これにより、建築家とのパートナーシップもより強固なものとなっていくことを大変喜ばしく思い、ますますの進展を期待いたしております。貴協会の皆様のご活躍と、ご発展をお祈り申し上げます。

構造技術の発展期待

(社)日本建築士事務所協会連合会会長 三栖 邦博



貴協会は、平成元年7月に建築構造の設計、工事監理等に関する学術・技術の発展を目的に設立され、これまで建築構造士制度の実施、職能研さん等の事業を推進されてきました。昨年11月、建築士法の抜本改正がなされ、構造設計一級建築士制度が創設され、本年5月からは、一定の建築物の構造設計には構造設計一級建築士の関与が義務付けられました。

わが国の建築構造の設計、工事監理等の学術、技術のますますの発展に貢献されることを期待します。

責任と権限が明確化

(社)建築設備技術者協会会長 牧村 功

会員のステータス向上へ

(社)日本免震構造協会会長 西川 孝夫

リーダーシップの発揮を

(財)日本建築防災協会理事長 岡田 恒男

JSCA法人化20周年記念大会 建築会館ホール(東京・芝)

9月11日(金)

9月12日(土)